

2020年度 水泳部 メンバーインタビュー

スローガン：「執念」－競泳部門－

部員数

41～60人（部門：競泳、水球、飛込、アーティスティックスイミング）

主な成績

所属学群

体育専門学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、情報学群、医学群

練習場所

筑波大学屋内プール（50m×7レーン）

第66回全国国公立大学選手権水泳競技大会・男女総合優勝（競泳）

第95回日本学生選手権・女子総合6位（競泳）

第95回日本学生選手権・第3位（水球）

宮村有樹彦（体育4年/主将/競泳）

小島健太郎（体育2年/競泳）

—私が目指す「水泳」

宮村

タイム、自己ベストをどんどん縮めることを目指しています。また、今は「大学水泳」というフィールドで競技をしているので、自己ベストを目指しつつ、チームの目標も達成できるようにと思いやっています。



小島

楽しむ事を大切に、その中で、自己ベストを更新し続ける。まずは、自分のために頑張る。記録を更新して、チームにも貢献したいと思っています。

— 筑波大学をどう思っていた？

宮村

高校の時に、国立の大学に進学したいという思いがまずありました。その中で水泳を高いレベルで続けたいと思うと、筑波大学でした。

また、高校の時は競技力が低く、他の強豪校だと続けられない場合もある。筑波大学なら、4年間、選手を続けられると、高校2年生の時に参加したオープンキャンパスで教えてもらい筑波大学を志望するようになりました。

入学すると、環境も整っていて、授業の内容も自分の競技に繋がる内容が、入学して良かったと思っています。

小島

中学3年生の頃、遠征の一環で筑波大学の練習に参加したり、施設を使用したことがあります。その時、実際にスタッフさんや監督さんがとても優しかった思い出がありました。その頃から、筑波大学が目標になっていました。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなところ

宮村

チームの一員として、組織の一員として物事を考えられるようになりました。これまででは、自分の感情が一番に来ていました。今はチームづくり、組織づくりを学べたなと感じています。

また、先生やスタッフが、最先端の知見を持っている、先輩とも競技に対して、考え方を共有できる環境がいいなと思っています。

これまで、強豪校で水泳をしたことがなく、今はシード校として全国大会に参加できる、ごく少数の人しか体験できない経験ができることにありがたさを感じます。

小島

高校の頃は、全国大会に同じ学校から1人や2人で参加することが多かったです。大学では、自分より速い選手に囲まれて、切磋琢磨できる点は、未だに変な感覚ですし、とてもいい環境だと思います。

自分ができないことも、先輩に聞くと快く教えてくれる。中学・高校までは自分の周りに相談できる相手も多くない環境でしたが、ここに来て話をしてことで、高め合うことができています。



— これからの目標（直近の目標、人生の目標）

宮村

インカレ水泳で、男子はシード権を獲得する、女子は総合300点、この目標を男女で達成したいと思っています。

春からは社会人になるので、会社の一員として会社に貢献したいです。また、将来的には引っ張っていけるような存在になりたいですね。

小島

インカレで決勝に残って、チームに貢献することを目標にしていきます。

将来は、「楽しく」を大切にしていければと思っています。どんな仕事についても楽しくやっていきたいです。

— 未来のチームメイトに一言

宮村

筑波の魅力は、どんなレベルの人でも、4年間、自分の可能性にチャレンジできる、メンバーと環境が整っているところです。

自分の水泳人生を最高の環境でチャレンジするには、もってこいの場所です。是非チャレンジしたい人に来て欲しいと思います。SNSも発信しているので、是非、フォローしてください。

小島

迷っている人は、筑波に決めるといいと思います。受験に向けては、勉強や競技力を高めて、是非、筑波に来てください！

